

13
命

せいっぱい生きる

きょうざい
教材の解説
かいせつ

十一さいでなくなった宮越由貴奈さんが、なくなる少し前に書いたのが、「命」という詩です。由貴奈さんは、自分が重い病気とたたかっていたにもかかわらず、同じ病院に入院している友達ともだちをばげまし、病室を明るくしてくれる、とても大きなそんざいでした。

